

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11105	2	前期	必修	1	30
授業科目名 (英文)	地域保健活動演習 (Community Health Nursing Seminar)				
担当教員名	○渡會睦子／佐々木美奈子／山本由加里／氏原将奈				
授業の概要及び到達目標					
<p>【授業の概要】</p> <p>地域で生活する個人、家族、集団および組織を対象に、当大学地域看護学領域が運営する地域保健活動事業に参加し、地域で生活する人々の健康の保持・増進のために実践されている施策、事業や活動の目的、内容、方法等を理解し、PDCA サイクルを活用しながら展開する。</p> <p>既存のデータや文献等から、地域のソーシャル・キャピタルを醸成することの目的・意義を理解し、そのために大学生として何ができるかを考えることができる。さらに、データから導き出した健康・生活の特徴を、臨地での演習より得た対象の健康・生活状況と統合させ読み解く。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の品川区の人口統計および今後の人口動態の予想データをもとに説明、記述できる。 ・ 品川区の自然環境、土地利用、産業、交通、歴史について資料をもとに説明、記述できる。 ・ 保健活動を支える制度、社会資源を把握し、住民、住民組織、行政、その他の連携・協働の実際を理解し、説明、記述できる。 ・ 各グループで、地域住民に対し大学・大学生ができることを考え、地域健康づくり事業の目的・運営について検討し、事業実践を行うことができる。 ・ 各グループが目的に合わせた評価・評価の見直しを行い、発表できる。 					
準備学習等					
<p>第2回目：予習としてソーシャル・キャピタル・地域づくりと健康の関係に関する文献を各自探し、読み意見をまとめる。</p> <p>第3-6回目：予習した上で事業運営について意見を出し、各グループで事業運営について検討したものを提出する。</p> <p>第15回目：各事業のまとめと反省の個人ワークに記載したものを深め提出する。</p> <p>毎回、準備学習は1時間程度とし、準備に下記の資料をよく読み使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品川区勢要覧 品川区 HP http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kuseizyoho/kuseizyoho-siryo/kuseizyoho-siryo-kankoubutu/hpg000026567.html ・ 第七期品川区介護保険計画 品川区 HP http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kuseizyoho/kuseizyoho-siryo/kuseizyoho-siryo-zaisei/kuseizyoho-siryo-zaisei-plan/kuseizyoho-siryo-zaisei-plan-ikiiki21/hpg000025765.html ・ 品川区の「区民健康づくりプラン 2. 品川区の現状と施策の動向」 品川区 HP http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/ct/other000000800/03kenkoplan.pdf ・ 品川区介護保険事業計画のあらまし 品川区 HP http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/ct/other000033000/5kaigohokenkeikakunoaramashi.pdf ・ 国民健康栄養調査結果 厚生労働省 HP http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyouchousa.html より、高齢者の健康状態、生活習 					

	<p>慣、所得などの特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢社会白書 内閣府 HP http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html より、高齢化の動向、世帯、経済状態、社会参加の実態などを理解する。
成績評価の方法	演習時の取り組み 20%、レポート 20%、最終発表 20%、発表会におけるディスカッションへの参加度 20%、最終レポート 20%
テキスト	「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会編：厚生労働統計協会）
参考図書	「地域保健スタッフのための「住民グループ」のつくり方・育て方」（星旦二、栗盛須雅子、医学書院）※ 「ソーシャル・キャピタルと健康」（イチロー・カワチ, S.V. スブラマニアン, ダニエル・キム編、日本評論社）※
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は、公衆衛生看護援助論Ⅱ、公衆衛生看護援助論Ⅲ、公衆衛生看護学実習の履修前提条件となる。公衆衛生看護援助論Ⅰでの健康・生活の特徴を基盤に対象集団理解を進める。また、データサイエンス（1年次後期）を活用し、住民の健康・生活の特徴を説明する。 ・ 各教員のオフィスアワーについては看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。 ・ 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。 ・ 全ての授業でワークシートまたはレポートの提出があります。コメントはワークシート／レポートに記載、または翌授業回に伝えます。振り返り学修に活用する等よく復習した上で試験に望んでください。
授 業 計 画	
第1・2回目：	<p>学内演習 (渡會・佐々木・山本・氏原) オリエンテーション 品川区保健計画・総合事業を理解する 品川区の概要が住民の健康の関連・住民の健康を守るために大学・大学生ができることを考える</p>
第3・4回目：	<p>学内演習 (渡會・佐々木・山本・氏原) PDCA サイクル Plan (計画) ソーシャル・キャピタルについて考える 事業運営の検討(グループワーク)</p>
第5・6回目：	<p>学内演習 (渡會・佐々木・山本・氏原) PDCA サイクル Plan (計画) 大学・UR 集会室事業における地域健康づくり事業の目的・運営の検討</p>
第7-9回目：	<p>臨地演習 (渡會・佐々木・山本・氏原) PDCA サイクル Do (実施) 大学・UR 集会室事業における地域健康づくり事業の運営</p>
第10・11回目：	<p>学内演習 (渡會・佐々木・山本・氏原) PDCA サイクル Check(評価) Act (評価の見直し) 各個人の各事業のまとめと反省・次回事業実施学生への引継ぎ 目的に合わせた評価・評価の見直し・目標に加えることの検討</p>
第12・13回目：	<p>学内演習 (渡會・佐々木・山本・氏原) 発表会の準備 (各グループの発表資料作成と役割の分担)</p>
第14・15回目：	<p>学内演習 (渡會・佐々木・山本・氏原) 最終発表会 各個人の各事業のまとめと反省、評価・評価の見直し *第7-9回目の開講日はグループにより異なる</p>